第５章　大学の地域貢献に対する評価と交流の障害

小林雅之（東京大学）

5-1. 大学の地域特性の評価
5-2. 大学の地域貢献の内容
5-3. 地域の協力体制
5-4. 交流の障害
5-5. まとめ

有識者は、国立大学の地域社会に対する関わり方について、どのような評価を下しているのであろうか。また、その評価は有識者の大学との交流の実態や活動領域等によって異なっているのであろうか。また、そうした評価は有識者が大学と交流を持っているかどうかと関連があるだろうか。ここでは、この調査の中から大学の地域貢献に対する評価に関する具体的な項目をとりあげ、検討したい。また、評価に関連して、次に、逆に大学との交流に対する地域の協力体制の評価をみていく。最後に大学と地域交流の障害について、有識者がどのように感じているか、調査結果を検討する。これらから大学と有識者の交流のあり方とそれを促進する条件について考えたい。

5-1. 大学の地域特性の評価

5-1-1. 大学の地域的特性

はじめに、有識者からみて、調査対象となった地域の国立大学は、地域性から見てどのような大学だと考えられているかをみよう。表 5-１のように、「卒業生の地域での活躍」、「優れた学生が集まってきている」あるいは「教育の充実した大学」といった教育面での地域性を肯定する者が多くなっている。これに対して、「研究のレベルは全国的」という研究面での地域性の評価は高くなく、さらに、「教員の地域貢献」は最も評価が低くなっている。

有識者の活動領域別にみると、同じく表 5-１のように政治と行政の各活動領域の有識者の評価が高

表 5-1　大学の地域特性（活動領域別）

領域	政治	行政	産業・経済	教育	医療・保健	社会・福祉	市民団体・ボランティア	報道・出版	文化・芸術	合計	p
優れた学生が集まる	**1.30**	1.13	1.14	0.98	1.06	1.11	0.96	*0.29*	0.72	1.07	***
教育の充実した大学	**1.18**	1.08	1.14	1.03	1.02	1.08	0.98	*0.54*	0.84	1.06	***
卒業生は地域で活躍	1.31	**1.37**	1.33	1.28	1.17	1.11	1.04	*1.00*	1.13	1.28	**
研究は全国的に高い	0.91	**0.93**	0.89	0.83	**0.93**	0.78	0.84	*0.43*	0.52	0.86	**
教員は地域に貢献	0.43	**0.69**	0.59	0.67	0.58	0.57	0.47	*0.29*	0.53	0.61	**

注）1. おおいにあてはまる=3、ややあてはまる=１、あまりあてはまらない=-1、全くあてはまらない=-3 の平均値：表 5-2、表 5-3 も同様
2. 太字は各項目の最高値、*斜体字*は最低値：以下同様
3. *** p<0.01、** p<0.05、* p<0.1、× 有意差なし：以下同様

くなっているのが目立つ。また、医療・保健・福祉領域の有識者は研究を評価している。これに対して、評価が著しく低いのは報道・出版の有識者である。また、文化・芸術の領域の有識者の評価も低くなっている。

これを地域別に見ると、表 5-2 のように、「優れた学生」や「研究のレベル」「教育の充実」「卒業生の活躍」では東北と九州の２つの旧帝大の評価が高いのに対して、他の地域では低く著しく対照的である。これに対して、「教員の地域貢献」では、山形の評価が高くなっている反面、他の項目では比較的評価が高かった福岡の評価が低くなっているのが特徴である。また、山形の他、香川、佐賀といった一府県大学の評価が比較的高くなっているのは、これらの地方国立大学としての特徴を有識者も評価していることを示している。

表 5-2　大学の地域特性（地域別）

地域	宮城	山形	新潟	広島	香川	福岡	佐賀	合計	p
優れた学生が集まる	**2.13**	0.36	0.86	1.12	0.27	1.69	*0.21*	1.07	***
教育の充実した大学	**1.99**	0.40	0.83	1.32	0.35	1.52	*0.29*	1.06	***
卒業生は地域で活躍	**1.73**	0.97	1.33	1.13	0.95	**1.73**	*0.65*	1.28	***
研究は全国的に高い	**2.29**	0.12	0.53	0.77	*-0.05*	1.32	0.32	0.86	***
教員は地域に貢献	0.62	**0.88**	0.59	0.48	0.86	*0.28*	0.84	0.61	***

さらに、こうした評価は有識者が大学と交流をもっているかどうかと関連があると考えられる。ここでは、過去１年間に大学から協力要請を受けた者を交流あり層、なかった者を交流なし層として両者の相違を比較する。この大学との交流の有無のタイプ別に評価をみると、表 5-3 のように、交流あり層の方が、いずれの項目でも大学の地域貢献を高く評価していることがわかる。これは交流あり層の方が、大学の活動等について認知しているためと思われる。

それぞれの大学のもつ地域的な特性について、有識者はそれぞれの大学の特徴にあった評価を客観的に下しているといえよう。

表 5-3　大学の地域特性（交流の有無別）

交流の有無別	交流なし層	交流層	p
優れた学生が集まる	*1.03*	**1.16**	**
教育の充実した大学	*1.02*	**1.14**	**
卒業生は地域で活躍	*1.21*	**1.47**	***
研究は全国的に高い	*0.79*	**1.04**	***
教員は地域に貢献	*0.55*	**0.76**	***

5-1-2. 貢献の範囲

大学と地域社会の交流といった場合、ここで想定されている「地域社会」とはどの範囲を指すのであろうか。これは、難しい問題である。つまり、人によっては、市町村などの近隣自治体を想定する場合もあるだろうし、さらに広く、都道府県や広域地方ブロックまで含めると考える者もあるだろう。回答者によって、この範囲は異なることが予想される。

この問題に対して２つの対処の仕方がある。１つは、質問に先立って「地域社会」の範囲を限定して答えてもらう方法である。具体的には、たとえば、「ここで『地域社会』とは、あなたのお住まいの市町村を念頭においてお答え下さい」などとする方法である。この方法は、「地域社会」の範囲は限定されるものの、その限定された範囲を想定した回答しかえられない。大学と地域社会の交流といっても、大学と市町村の交流になり、他の範囲の地域は含まれないという点が問題である。

もうひとつの方法は、特に「地域社会」の範囲を限定せず、回答者に委ねるという方法である。この方法は、「地域社会」の範囲が曖昧になる点が欠点であるが、上記の「地域社会」全体と大学の関連を包括的にとらえることができると考えられる。

このため、今回の調査では、後者の方法をとることにした。この方法では、上に述べたように、地域社会の範囲が曖昧になる。そこで、この点を補うためにも、有識者から、大学がどの範囲の地域に貢献しているかをたずねてみた。さらに、この質問では、「地域社会」に対応するより普遍的な大学の貢献の範囲として「日本全国」と「国際」をあげて、比較することにした。

表 5-4 のように、有識者は「所在県」に対して貢献していると評価しているが、「所在地方」は、これに比べて評価は低くなっている。さらに、「全国」と「国際」は、さらに低くなり符号は負になっている。つまり、平均的には貢献していないと評価されている。国立大学は、所在県にはおおいに貢献していると考えられているものの、所在地方に対する貢献は、それほどでもなく、さらに地方に対する全国や国際への貢献は高く評価されていないことがわかる。

さらに、有識者の活動領域別にみると、同じく**表 5-4** のように、医療・保健・福祉の有識者の評価が高い一方で、報道・出版の有識者の評価が低い。また、文化・芸術の有識者の評価は高くない。これは前問と同じ傾向である。また、政治と行政の評価が比較的高いのも前問と同様の傾向である。

表 5-4　大学の地域貢献の範囲（活動領域別）

領域	政治	行政	産業・経済	教育	医療・保健	社会・福祉	市民団体・ボランティア	報道・出版	文化・芸術	合計	p
所在県	1.65	1.82	1.62	1.68	**1.85**	1.51	1.52	*1.23*	1.47	1.69	***
所在地方	0.70	0.72	0.79	0.64	**0.84**	0.54	0.50	*0.20*	0.60	0.69	***
全国	-0.04	-0.07	-0.12	-0.07	**0.08**	-0.11	-0.14	*-0.71*	-0.11	-0.08	***
国際的	-0.16	-0.21	-0.30	-0.25	**-0.02**	-0.09	-0.10	*-0.73*	-0.40	-0.23	***

注）おおいに貢献=3、やや貢献=１、あまり貢献していない=-1、全く貢献していない=-3 の平均値：**表 5-5**、**表 5-6** も同様

この評価は、**表 5-5** のように、所在県以外の範囲では、地域あるいは大学による差が顕著であることが特徴である。特に、東北大学は所在地方、全国、国際、いずれもおおいに貢献していると高く評価されている。これに対して、九州大学は、所在地方にはおおいに貢献しているものの全国や国際の貢献は、他の５大学とあまり差がない。また、前問と同じように**表 5-6** のとおり、交流層の方が交流なし層より一貫して評価が高くなっていることも特徴である。貢献の範囲については、有識者の活動領域や地域、交流の有無によって明確な相違がみられることが注目される。

表 5-5　大学の貢献の範囲（地域別）

	宮城	山形	新潟	広島	香川	福岡	佐賀	合計	p
所在県	1.65	1.77	1.70	*1.57*	1.70	**1.79**	1.61	1.69	*
所在地方	**1.31**	0.39	0.34	0.65	0.32	1.11	*0.28*	0.69	***
全国	**1.06**	-0.36	-0.28	-0.24	-0.71	0.05	*-0.47*	-0.08	***
国際的	**0.80**	*-0.78*	-0.39	-0.16	-1.01	-0.12	-0.27	-0.23	***

表 5-6　大学の貢献の範囲（交流の有無別）

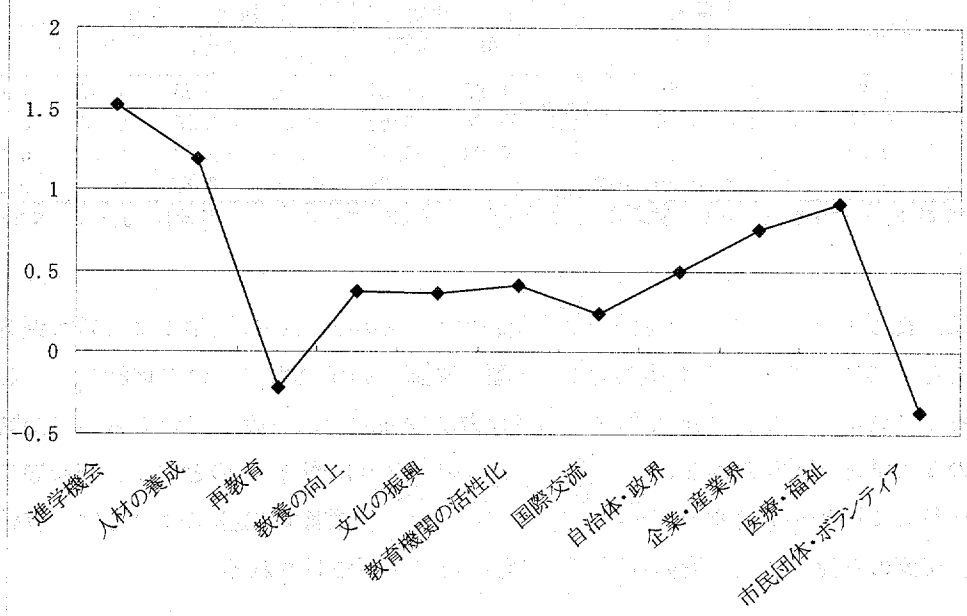
交流の有無別	交流なし層	交流層	p
所在県	*1.6306*	**1.8388**	***
所在地方	*0.6277*	**0.8312**	***
全国	*-0.1506*	**0.0795**	***
国際的	*-0.3081*	**-0.0244**	***

5-2. 大学の地域貢献の内容

5-2-1. 大学の地域貢献

大学は具体的にどのように地域へ貢献していると考えられているのであろうか。ここでは１１の項目についてたずねた。図 5-1 の縦軸の数値は「おおいに貢献している」に３点、「やや貢献している」に１点、「あまり貢献していない」に-１点、「全く貢献していない」に-３点を与えたときの平均値であるが、これをみると、最も貢献していると考えられているのは、「地域の高校生の進学機会」で、ついで「地域の保健・医療・福祉」が高く評価していると回答している。これは、「地域で活躍する人材の養成」に比べると、あまり高くないようであるが、この項目では、医学部を持たない香川大学と佐

図5-1　大学の地域貢献評価



賀大学の評価が低いため、これを除くと評価は、「進学機会」につぐ。ついで、「地域で活躍する人材の養成」で評価が高い。これらを除くと、いずれの項目も評価は高くない。ことに、「職業人の再教育」と「市民団体・ボランティア」に対する貢献の評価は著しく低い。これは、これまでの国立大学の地域貢献のありかたを反映していると考えられる。つまり、貢献している領域が教育や保健・医療・福祉のように、特定の活動領域に偏っていることを示している。

このことは、先に見た有識者と大学との交流が特定の活動領域どうしに限られていたこととも関連している。**表 5-7** のように、有識者はおおむね自分の活動領域に近い大学の地域への貢献を評価する傾向がある（この表では、この有識者の活動領域に対応する大学の地域への貢献の項目を枠で囲ってある)。たとえば、医療・健康の領域の有識者（５列目）は、大学が「地域の保健・医療・福祉に」貢献している（下から２行目）と高く評価している。しかし、必ずしも各領域の有識者の中で最も高く評価している（表では、太字）をしている）わけではない。たとえば、教育の領域の有識者が、大学が「地域の教育機関の活性化」に貢献していると評価する者が最も多いわけではない。こうした傾向はあるもののおおむね有識者の活動領域と大学の地域貢献の項目は対応しているといえよう。また、大学の地域貢献に評価が辛い報道・出版の領域の有識者が「進学機会」を高く評価しているのも注目される。

表 5-7　大学の地域貢献の評価（活動領域別）

	政治	行政	産業・経済	教育	医療・保健	社会・福祉	市民団体・ボランティア	報道・出版	文化・芸術	合計	P
進学機会	1.3699	1.6486	1.6257	1.4695	1.6419	1.3864	1.2745	**1.6857**	*1.0189*	1.5252	***
人材の養成	1	1.3028	1.1479	1.225	**1.349**	1.0455	*0.8824*	1.1538	0.7963	1.1883	***
再教育	-0.226	-0.2205	-0.3682	-0.1363	-0.2534	**-0.0476**	-0.16	*-0.5146*	-0.2157	-0.219	**
教養の向上	0.4104	0.3242	0.359	0.3974	0.4932	**0.5723**	0.24	0.1456	0.3019	0.3758	×
文化の振興	0.3662	0.2987	0.3321	0.4218	**0.539**	0.4743	0.2727	*0.0485*	0.1111	0.3594	***
教育機関の活性化	0.3972	0.3641	0.3996	0.4622	**0.5578**	0.4913	0.32	0.0485	0.3077	0.41	*
国際交流	0.1181	0.2952	0.2179	0.1529	0.3831	**0.4353**	0.3333	0.3333	*0.0485*	0.233	**
自治体・政界	0.4338	**0.8599**	0.41	0.3724	0.2177	0.5349	0.2727	*0.1845*	0.3396	0.501	***
企業・産業界	0.5963	**0.8903**	0.7912	0.704	0.7192	0.896	0.5354	0.6154	*0.5849*	0.7534	***
医療・福祉	0.8568	0.9259	0.8593	0.9284	**1.278**	0.9429	0.7647	*0.4369*	0.9057	0.9194	***
市民団体・ボランティア	-0.4143	-0.3433	-0.3169	-0.3917	*-0.4276*	-0.2281	-0.24	-0.54	-0.2453	-0.3623	×

注）おおいに貢献=3、やや貢献=１、あまり貢献していない=-1、全く貢献していない=-3 の平均値：図 5-1、表 5-8、表 5-9 も同様

また、地域別には、**表 5-8** のように、先に見た医学部の有無による相違の他、評価が高いのは、「高校生の進学機会」としては山形と九州、「地域人材の養成」では九州、「地域における国際交流」では東北と佐賀、「地域の政界・行政」で九州、「地域の企業・産業界」で東北と、それぞれ大学別にやや差異が見られる。これは、各大学と地域の特徴に対応しているといえよう。

さらに、有識者の大学との交流の有無別にみると、表 5-9 のように、交流あり層の方が、全ての項目で大学の地域貢献を高く評価している。これは、これまでみた他の質問項目と同じ傾向である。

表 5-8　大学の地域貢献の評価（地域別）

地域	宮城	山形	新潟	広島	香川	福岡	佐賀	合計	P
進学機会	1.0939	**1.81**	1.7119	*1.0884*	1.6552	1.751	1.6196	1.5252	***
人材の養成	*0.9271*	**1.3865**	1.2866	1.0361	1.2345	1.3109	1.13	1.1883	***
再教育	-0.1634	-0.2414	-0.2615	-0.1993	-0.1641	-0.2955	-0.1552	-0.219	×
教養の向上	0.3913	0.3363	0.4366	0.3223	**0.4903**	*0.2718*	0.443	0.3758	*
文化の振興	0.3983	0.4009	0.4497	0.2637	0.368	0.2725	0.4106	0.3594	×
教育機関の活性化	0.3182	0.5136	0.4545	0.4083	**0.5767**	*0.2145*	0.5315	0.41	***
国際交流	**0.6261**	*-0.212*	0.1406	0.3721	-0.2009	0.2722	0.5219	0.233	***
自治体・政界	0.5443	0.4853	0.3468	*0.3344*	0.5398	**0.7594**	0.4264	0.501	**
企業・産業界	**1.066**	0.7677	*0.5344*	0.6206	0.6501	0.8853	0.7084	0.7534	*
医療・福祉	1.3507	1.2358	**1.4815**	0.8647	*-0.3304*	1.3605	*-0.2974*	0.9194	**
市民団体・ボランティア	-0.4018	-0.3488	-0.3514	-0.2742	-0.4311	-0.3959	-0.3282	-0.3623	×

表 5-9　大学の地域貢献（交流の有無別）

	交流なし層	交流層	P
進学機会	*1.4848*	**1.6293**	***
人材の養成	*1.1173*	**1.3711**	***
再教育	*-0.2521*	**-0.1346**	***
教養の向上	*0.3004*	**0.568**	***
文化の振興	*0.2826*	**0.5551**	***
教育機関の活性化	*0.355*	**0.5506**	***
国際交流	*0.1351*	**0.4806**	***
自治体・政界	*0.4522*	**0.6257**	***
企業・産業界	*0.7067*	**0.8728**	***
医療・福祉	*0.8763*	**1.0294**	***
市民団体・ボランティア	*-0.3817*	**-0.3128**	*

5-2-2. 地域の資源の活用

大学は地域の資源を有効に利用活用していると有識者たちは評価しているのであろうか。５つの項目について、たずねた結果は表 5-10 の通りである。「地域の資源や情報」と「地域の自然・社会環境」は活用していると答えた有識者が多くなっているが、その他の「自治体などの施設・設備」、「地域の人材」、「自治体などの資金」に関しては、活用していないと考えている有識者の方が多くなっている。まだ、大学は地域の資源を有効に活用していないと有識者の目には映っているといえよう。

有識者の活動領域別にみると、いくらか差異がみられるが、大きな傾向というようなものはみられない。ただ、報道・出版で「地域に資料や情報」、産業・経済界で「自治体などの資金」を大学は有効に活用しているとは評価してないことは注目される。それぞれ有益な資源を持っているが、大学はそれをいかしていないとこれらの関係者は指摘しているといえよう。

表 5-10　地域の資源の活用（活動領域別）

	政治	行政	産業・経済	教育	医療・保健	社会・福祉	市民団体・ボランティア	報道・出版	文化・芸術	合計	P
自治体などの施設・設備	-0.21	-0.21	-0.17	-0.32	-0.15	**-0.04**	-0.18	*-0.45*	-0.24	-0.23	**
地域の人材	-0.24	-0.19	-0.08	-0.26	-0.13	-0.18	-0.22	-0.37	-0.21	-0.20	×
地域の資料や情報	0.03	0.31	0.21	0.20	0.10	0.26	*-0.08*	**0.29**	0.14	0.20	***
自治体などの資金	-0.49	-0.31	**-0.09**	-0.41	-0.31	-0.35	-0.48	-0.37	*-0.65*	-0.34	***
自然・社会環境	0.08	0.20	0.21	0.22	0.08	0.20	0.27	0.13	0.18	0.19	×

注）おおいに活用している=3、やや活用している=1、あまり活用していない=-1、全く活用していない=-3 の平均値：表 5-11、表 5-12 も同様

地域別には表 5-11 のように、あまり大きな相違はみられない。「自治体などの資金」で宮城、「自然・社会環境」で佐賀が活用していると評価されている。逆に「資金」で新潟、「自然・社会環境」では福岡が評価が低くなっている。

交流の有無別では、表 5-12 のように、これまで同様交流あり層の方が大学は地域の資源を活用していると評価している。

表 5-11　地域の資源の活用（地域別）

	宮城	山形	新潟	広島	香川	福岡	佐賀	合計	P
自治体などの施設・設備	-0.20	-0.21	-0.32	-0.27	-0.19	-0.24	-0.15	-0.23	×
地域の人材	-0.24	-0.19	-0.15	-0.27	-0.15	-0.21	-0.16	-0.20	×
地域の資料や情報	0.17	0.28	0.17	0.13	0.28	0.15	0.27	0.20	×
自治体などの資金	**-0.21**	-0.43	*-0.49*	-0.32	-0.40	-0.28	-0.25	-0.34	***
自然・社会環境	0.31	0.32	0.23	0.11	0.02	*-0.02*	**0.50**	0.19	***

表 5-12　資源の活用（交流の有無別）

交流の有無別	交流なし層	交流層	P
自治体などの施設・設備	*-0.2719*	**-0.1287**	***
地域の人材	*-0.2412*	**-0.094**	***
地域の資料や情報	*0.1377*	**0.3515**	***
自治体などの資金	*-0.4049*	**-0.1784**	***
自然・社会環境	*0.1316*	**0.324**	***

5-3. 地域の協力体制

これまで、大学の地域への貢献という点から、大学と地域との交流をみてきたが、逆に地域の大学に対する協力という点で、有識者はどのように評価しているのであろうか。これは、いわば、有識者の自己評価ということになろう。これを、この調査で用いている６つの活動領域別にたずねた。

表 5-13 のように、この評価はさほど高くない。最も協力的であると評価しているのは、「地域の教育界」で、ついで「地域の保健・医療・福祉団体」である。他の活動領域の評価は高くない。特に、「地域の文化・芸術・マスコミ」と「市民団体・ボランティア」で低くなっている。これは先の質問と同

じ傾向である。

有識者の活動領域別にみると、同じく表 5-13 のように、前の地域貢献と同様、有識者の自分の活動領域に対応した活動領域で協力的であると考えていることがわかる。いわば、自己評価は高いのである。多くの項目で、自己の所属する領域が協力的であると評価する者が最も多くなっている。

前問と合わせて考えると、有識者は、大学と地域との交流活動のすべての活動領域を知っているわけではなく、自分の身近の活動領域の大学の活動や自分の活動領域の活動を通して、大学と地域の交流を評価しているといえる。

次にこの点をみるために、先に見た大学の地域貢献の質問項目との相関をみてみよう。表 5-14 のように、関連する活動領域で相関が高くなっている。つまり、大学が地域貢献をしている活動領域（例　地域の高校生の進学機会、1 行目）では、貢献していると評価している有識者ほど、地域社会の協力体制（例　地域の教育界　3 列目）も高い（相関係数 0.25･）と評価しているのである。有識者は、自分の

表 5-13　地域の協力体制（活動領域別）

	政治	行政	産業・経済	教育	医療・保健	社会・福祉	市民団体・ボランティア	報道・出版	文化・芸術	合計	P
地方自治体や政界	0.07	**0.45**	0.17	0.08	0.19	0.21	0.05	0.14	*-0.02*	0.20	***
企業・産業界	0.19	0.34	0.32	0.19	0.28	0.27	0.05	0.26	0.21	0.26	×
教育界	0.54	0.56	*0.50*	**0.78**	0.64	0.53	0.66	0.56	0.58	0.62	***
保健・医療・福祉団体	0.31	0.34	0.35	0.41	**1.06**	0.31	0.34	*0.07*	0.31	0.40	***
文化・芸術・マスコミ	-0.05	-0.08	-0.03	0.02	0.13	0.11	-0.01	0.17	0.06	0.00	×
市民団体・ボランティア団体	-0.48	-0.50	-0.46	-0.46	-0.40	-0.36	-0.29	-0.38	-0.50	-0.46	×

注）とても協力している=3、やや協力している=1、あまり協力していない=-1、全く協力していない=-3 の平均値：表 5-15、表 5-16 も同様

表 5-14　協力度と大学の貢献評価の相関

大学の地域貢献	協力度					
	地方自治体や地域の政界	地域の企業・産業界	地域の教育界	地域の保健・医療・福祉団体	地域の文化・芸術・マスコミ	市民団体・ボランティア団体
地域の高校生の進学機会として	0.216	0.168	**0.250**	0.179	0.170	0.156
地域で活躍する人材の養成に	0.275	0.257	**0.292**	0.224	0.252	0.232
職業人の再教育に	0.253	0.268	0.248	0.209	0.287	**0.316**
地域住民の教養の向上に	0.259	0.270	0.317	0.258	**0.341**	**0.342**
地域の文化の振興に	0.276	0.290	0.314	0.278	**0.385**	0.344
地域の教育機関の活性化に	0.288	0.295	**0.413**	0.273	0.359	0.344
地域における国際交流に	0.283	0.308	0.231	0.237	0.320	0.325
地域の政界・行政に	**0.396**	0.340	0.272	0.236	0.284	0.264
地域の企業・産業界に	0.327	**0.439**	0.285	0.264	0.313	0.282
地域の保健・医療・福祉に	0.182	0.232	0.194	**0.576**	0.251	0.234
市民団体・ボランティアに	0.300	0.291	0.285	0.306	0.398	**0.535**

（注）数字は相関係数：太字は行の最大値　　すべてP<0.01

活動領域の交流活動に関しては、認知度が高く、大学の地域貢献に対する評価も高く、また地域社会の側の協力度も高いと考えている。このことは、交流のあり方に示唆を与えるものである。

地域別には、表 5-15 のように、いくらか差異がみられる。協力体制が評価されているのは、「自治体や政界」と「教育界」で山形、「保健・医療・福祉」で新潟、「文化・芸術・マスコミ」と「市民団体・ボランティア」で佐賀である。逆に評価されていないのは、「自治体・政界」と「企業・産業界」で新潟、「教育界」と「市民団体・ボランティア」で福岡、「保健・医療・福祉」と「文化・芸術・マスコミ」で香川となっている。これらは、それぞれの地域の性格や大学の特性、両者の関連をよくあらわしているとみることができる。その点、ここからもそれぞれの地域や国立大学との関連を有識者が客観的に評価していることを示している。

また、交流の有無別では、表 5-16 のように、これまでと同じ様に交流あり層の方が全ての項目で地域の協力体制を高く評価している。

表 5-15　地域の協力体制（地域別）

	宮城	山形	新潟	広島	香川	福岡	佐賀	合計	P
地方自治体や政界	0.14	**0.37**	*0.00*	0.17	0.27	0.25	0.33	0.20	***
企業・産業界	**0.53**	0.30	*-0.01*	0.23	0.13	0.31	0.33	0.26	***
教育界	0.31	**0.96**	0.78	0.59	0.81	*0.27*	0.90	0.62	***
保健・医療・福祉団体	0.60	0.69	**0.83**	0.35	*-0.41*	0.60	-0.29	0.40	***
文化・芸術・マスコミ	-0.06	0.12	0.08	-0.02	*-0.19*	-0.14	**0.32**	0.00	***
市民団体・ボランティア団体	-0.53	-0.42	-0.43	-0.37	-0.54	*-0.56*	**-0.27**	-0.46	***

表 5-16　地域の協力体制（交流の有無別）

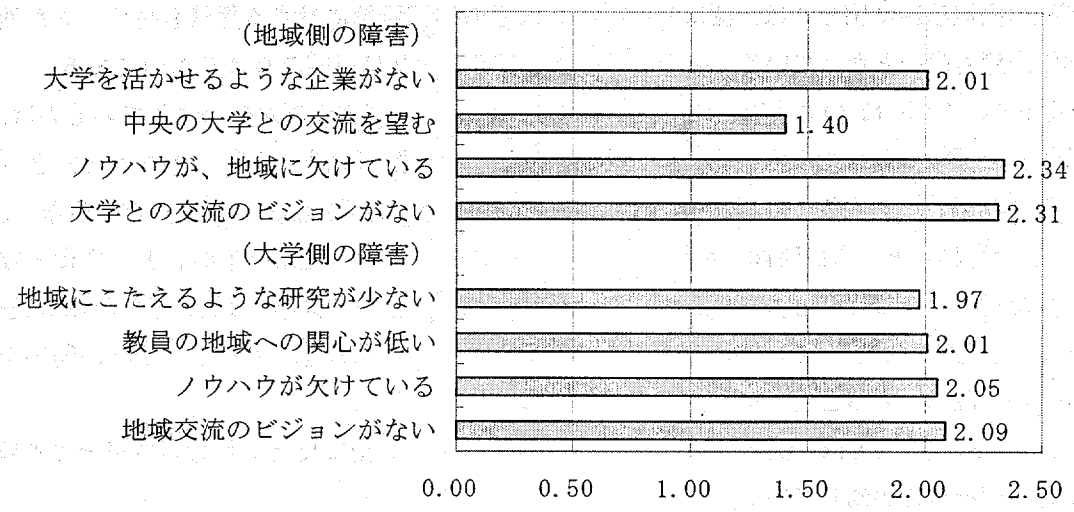
交流の有無別	交流なし層	交流層	P
地方自治体や政界	*0.125*	**0.4017**	***
企業・産業界	*0.1695*	**0.48**	***
教育界	*0.5857*	**0.7066**	**
保健・医療・福祉団体	*0.3292*	**0.5893**	***
文化・芸術・マスコミ	*-0.0445*	**0.1004**	***
市民団体・ボランティア団体	*-0.4912*	**-0.3706**	***

5-4. 交流の障害

大学と地域社会の交流にあたって、障害になっているものは何であると有識者たちは考えているのであろうか。ここでは、この障害となっている要因を、大学の側と地域の側に分けてたずねた。

図 5-2 の横軸の数値は「そう思う」に３点、「ある程度そう思う」に２点、「そう思わない」に１点を与えたときの平均値であるが、これをみると、地域の側に障害があると考えている者が多く、とくに「地域の側に大学との交流のビジョンがない」と「大学との交流をするためのノウハウが、地域社会の側に欠けている」の２つが多くなっている。しかし、「地域の側が、地元の大学との交流より、中央の大学との交流を望んでいる」と考えている者は少ない。これに対して、大学の側の障害としては、それほど大きな差はない。

図5-2　地域交流の障害



活動領域別では、表 5-17 のように、報道・出版で障害があるとする者が多くなっている。これは大学の地域貢献に対する評価が低いことと対応している。地域別では、表 5-18 のように、福岡で大学の側の障害のいずれの項目でも障害と考えている者が多くなっていることがめだつ。また、山形や香川では「地域の側が、地元の大学との交流より、中央の大学との交流を望んでいる」という回答が多く、地方国立大学のおかれている状況を反映している。

表 5-17　交流の障害（活動領域別）

	政治	行政	産業・経済	教育	医療・保健	社会・福祉	市民団体・ボランティア	報道・出版	文化・芸術	合計	P
（大学側の障害）											
地域交流のビジョンがない	2.15	2.08	2.08	2.03	2.14	2.19	**2.21**	2.16	2.11	2.09	***
ノウハウが欠けている	2.10	2.02	2.05	1.98	2.21	2.05	2.09	**2.26**	2.11	2.05	***
教員の地域への関心が低い	2.11	1.95	1.97	2.01	2.09	2.03	**2.15**	2.11	2.07	2.01	***
地域にこたえるような研究が少ない	2.03	1.96	1.99	1.91	2.02	2.00	1.90	2.14	**2.15**	1.97	***
（地域側の障害）											
大学との交流のビジョンがない	2.39	2.30	2.26	2.29	2.27	2.37	2.39	**2.46**	2.31	2.31	***
ノウハウが、地域に欠けている	2.41	2.32	2.32	2.32	2.31	2.39	**2.45**	2.43	2.29	2.34	**
中央の大学との交流を望む	1.40	1.34	1.36	1.37	1.51	1.55	1.45	**1.73**	1.72	1.40	***
大学を活かせるような企業がない	2.08	1.99	1.97	1.98	2.07	1.99	2.07	2.18	**2.20**	2.01	***

注）そう思う=3、ある程度そう思う=2、そう思わない=1 の平均値。何ともいえないと無回答は除外した。図 5-2、表 5-18 も同様。

こうした地方の国立大学は、むしろ地元地域との交流に積極的であると考えられ、今回の調査でも教員の地域への貢献などの点で、地域性を持つ大学としてみられている。しかし、地元は中央の大学との交流を志向しているという皮肉な結果になっている。ただ、山形では大学側の障害として「地域にこたえるような研究が少ない」とする者が多く、逆に佐賀では最も少なくなっているなど、地域や大学の差もみられる。また、宮城では、大学より地域の側の障害を指摘する者が多くなっている。

また、交流の有無別では、大学の側の障害として「ノウハウが欠けている」とした者が交流層で多くなっている以外には有意な差はみられない。これまで、一貫して交流あり層の方が高く評価しているのとは明らかに異なる傾向である。実態を知り、交流をしている者の方が大学の地域貢献を高く評価する反面、大学への期待が高く、大学に対して厳しい見方をしていると考えることができよう。それは、「少々広島大学に対して厳しい評価をしているが、その分期待も大きい」（広島）といった自由回答からも伺うことができる。さらにいえば、大学の側がノウハウをより積極的に開発することを期待しているとみることができよう。

表 5-18　交流の障害（地域別）

	宮城	山形	新潟	広島	香川	福岡	佐賀	合計	P
（大学側の障害）									
地域交流のビジョンがない	2.09	2.08	2.13	2.10	2.05	**2.19**	1.84	2.09	***
ノウハウが欠けている	2.02	2.04	2.08	2.04	2.02	**2.17**	1.86	2.05	***
教員の地域への関心が低い	2.08	1.92	2.04	2.09	1.85	**2.15**	1.77	2.01	***
地域にこたえるような研究が少ない	1.87	2.02	2.01	1.99	**2.06**	2.04	1.74	1.97	***
（地域側の障害）									
大学との交流のビジョンがない	2.34	2.31	**2.36**	2.30	2.23	2.35	2.23	2.31	***
ノウハウが、地域に欠けている	2.35	2.32	2.38	2.34	2.31	2.35	2.27	2.34	×
中央の大学との交流を望む	1.19	1.58	1.50	1.33	1.60	1.30	**1.42**	1.40	***
大学を活かせるような企業がない	2.12	2.10	2.04	1.82	2.10	1.85	**2.23**	2.01	***

なお、自由回答からは、次のような交流の障害が指摘されている。

●交流の偏り

地域社会との交流について。審議会や協議会の委員や座長になる方も、毎回ほぼ限られた数名の教官のみで、他の教官は地域に余り知られていない。（香川）

●有識者の大学に関する情報不足

今回改めてお尋ねを受けてみて、東北大学について意外に知らないことを感じました。マスコミを通じ、多様な分野での輝しい成果を見聞きし、また職場での共同研究を通し、あるいは公開講座を受講し、いろいろな先生を知ってもおりました。が、それはごく一部分であって、全体的な像（特に大学の考え方）については、ほとんど無知であったことを知らされました。（宮城）

●大学の multiversity 化

工学部出身なので工学部とは連絡はあるが他の学部の情報はさっぱり入らない。総合大学なのだから、何か横の連繋がある様な行事なりがあっても良いのではないか。（新潟）

●地域の側とりわけ行政側にもセクション別の細分化の問題

行政側は、各セクション別には東北大学との間に一定の交流はあるが、トータルな形で大学に期待する役割、機能についてのビジョンを欠いているのではないか。(宮城)

●大学の地域への情報発信と情報公開

大学側の予算の制約があるためやむを得ない状況とは察するが、大学が何をしているのかという広報がほとんどない。(新潟)

●財政問題

地方財政が緊迫している現状の中で、財政的にゆとりをもった交流事業は不可能と思われますが、何とか次の点で東北大学には役割を発揮していただくよう期待するものです。(宮城)

●学生の地域性のなさ

一般住民にとって、山形大学は大変遠い存在に思えます。子弟が山形大学に入学できるのは、その総数からみれば、ほんの一にぎりですから、関わりのあるのも一部の人々という事になります。(山形)

●大学の産学協同への忌避

香川大学に限ったことではないが、一般的に国立大学には行政や企業への実践的な関与を、学問的でないとする風潮が残っているように思う。このことが、地域社会との関係を低調にしている一因となっている。(香川)

●大学の官僚制化と敷居の高さ

大学(学部)と連携した取り組みを依頼しても、教授会等での手続きが面倒とのことで、協力を得られないことがあった。(新潟)

●私大との比較して国立大学の対応の悪さ

一般的に言って、国立大は私立大に比べ、卒業生の卒業後の組織づくりに冷淡であるように思う。もっと各界に活躍している人達を入れてネットワークをつくり、そのネットワークを核にして、地域社会と大学の交流を拡大してゆくべきである。(福岡)

5-5. まとめ

(1) 大学の特徴に応じた評価

今回の調査の結果をみると、大学の特徴に応じた評価を有識者もしているといえよう。普遍性をめざす東北大学、所在県より九州地方全体に貢献している九州大学、ローカリティを持つ山形、香川、佐賀である。これらに対して、新潟と広島は、調査した大学の中では平均的であり、これといった地域特性や評価がみられない。

(2) 交流の障害は大学側にもあるが、地域社会の側にあると考えられている。

大学と地域社会との交流の障害について、大学の側と地域の側にも障害があると有識者は感じている。特に、地域の側に障害が多いとしている。このことは、大学と地域社会の交流を促進するには、

大学の側の障害だけでなく、地域の側の障害を取り除く必要があり、このため、大学や地域社会双方の努力が必要であることを意味している。

(3) 地域社会の活動領域別に大学の交流先も対応している。

有識者の所属する活動領域別に大学の交流先の活動領域も対応している。有識者の活動領域に対応した大学の地域貢献や、地域の協力体制を有識者は高く評価している。このことは、有識者が大学と交流をしている場合、あるいはそれに基づき地域交流を評価する際に、大学全体や多くの部局を考慮するというより、身近な自分のよく知っている活動領域を対象に考慮していることを示している。言い換えれば、大学と地域社会の交流は、大学と地域社会のそれぞれの活動領域によって分化しており、多くの有識者は、それぞれの活動領域に対応して交流を行っているといえよう。その中では、文化、国際交流、市民団体・ボランティア団体との交流がきわめて少ない。このように、大学と地域との交流は、分化し偏在化している。

(4) 大学の多様化と地域交流の方向性

個別の大学は多様化し、目的も複合化している。このことは一方で、国立大学が多様な役割を果たしていることを意味するが、他方理念が曖昧になることも意味している。これが「大学の方向性がわからない」という有識者の大学に対する評価にも示されている。

(5) 地域社会との交流のあり方

交流がある活動領域の場合には、有識者の評価は高い。大学に関して情報が少ない有識者の低い評価と対照的である。この有識者の評価が認知度によってきわめて異なることも大学がマルティヴァシティ化していることをあらわしている。特に福祉や国際交流などでこの差は大きい。このことから大学が何をしているか情報発信することが今後の地域交流の促進には重要であるといえよう。特に、私立大学と比較して、国立大学では財政条件、組織の官僚制などの要因によって交流が阻害されており、これらの制約をどう解消するかが今後の地域との交流の鍵となる。

ただ、マルティヴァシティ化した国立大学では、すべての活動領域で国際交流を進める必要もないと考えられる。大学全体との全面的な交流は実態的に不可能であるし、理念としても有識者にはまったく考えられていない。次の意見はその典型である。

> 学問領域によっては、地域と密接に関わるべき活動領域もあるだろうが、地域と直接関わらない活動領域も多く存在する。各々の特性に応じた関わり=交流が大切で、画一化こそ避けるべきだと考えている。(新潟)

有識者たちは、ほぼ客観的に大学の地域的な特性を認識している。大学の地域貢献の現状に対する評価は厳しいが、それだけ大学に期待するものも大きいと考えられる。大学とりわけ国立大学はこうした期待に今後どう応えていくかが問われている。